探究的な学習の在り方に関する研究推進地域事業
尾道市立長江中学校区　研究のまとめ

探究的な学習に取り組む先生方へ

尾道市立長江中学校・尾道市立長江小学校・尾道市立土堂小学校

長江中学校区では、「『答えのない問い』に果敢に挑戦し、他者と協働して自分たちなりの価値ある答えを見出す探究的な学習の創造」という研究主題のもと、研究を進めてきました。
本研究を通して、「教師の敷いたレールを児童生徒になぞらせてはいないか」「本当に児童生徒が主体となって学習に取り組めているのか」という課題を克服し、児童生徒が主体となって探究的な学習に取り組むことができる生活科・総合的な学習の時間の単元開発に取り組みました。

尾道市中学校リーダー研修会
マスコットキャラクター　おのにゃん

長江中学校区　研究３年間の軌跡

研究１年目
- ○育成したい資質・能力の整理と評価方法の確立
- ○９年間を見据えた生活科・総合的な学習の時間のカリキュラムの研究
- ○SDGｓとPBLの視点を入れた探究的な単元開発・授業づくり

研究２年目
- ○PBLの視点を入れた単元開発
- ○各単元における評価基準の整理、精選
- ○9年間を見据えた生活科・総合的な学習の時間のカリキュラムの整理・作成

研究３年目
- ○９年間の関連を意識したカリキュラムの活用と更新
- ○資質・能力の評価の在り方
  （ルーブリックの活用と教師によるフィードバック場面）の明確化
- ○児童生徒の気付きから学びを深めていくための、
  ＰＢＬの考え方を参考にした単元開発および実践

実践Ⅰ　「長江中学校区で共通して育成したい資質・能力」の共有

中学校区の全教職員で、３校の児童生徒の実態や９年間のゴール（中学校３年生の姿）を共有しながら、共通して育成したい資質・能力について話し合いました。資質・能力の発揮された具体的な姿まで共有し、教職員間で共通理解がもてるようにしました。

主体性	協働性
自ら学ぼうと・求めようと・解決しようとし、自分なりの（その時の）最適解をもっている。 自ら課題を見付けたり、解決方法を粘り強く考えたりしている。 自分で目標・課題を設定し、それに対して方略を考え出せている。	協働的な活動を通して、求められているゴールに対して最適解を導き出せている。 友達の意見を受け止めながら、見付けた課題の様々な解決方法を考えている。 他者の行動をよく観察し、まねるべき点を取り出してまねている。

長江中学校区の教職員で話し合って設定した共通して育成したい資質・能力（主体性・協働性）の発揮された姿

実践Ⅱ　「児童生徒が自己の変容を自覚するためのルーブリック」の活用

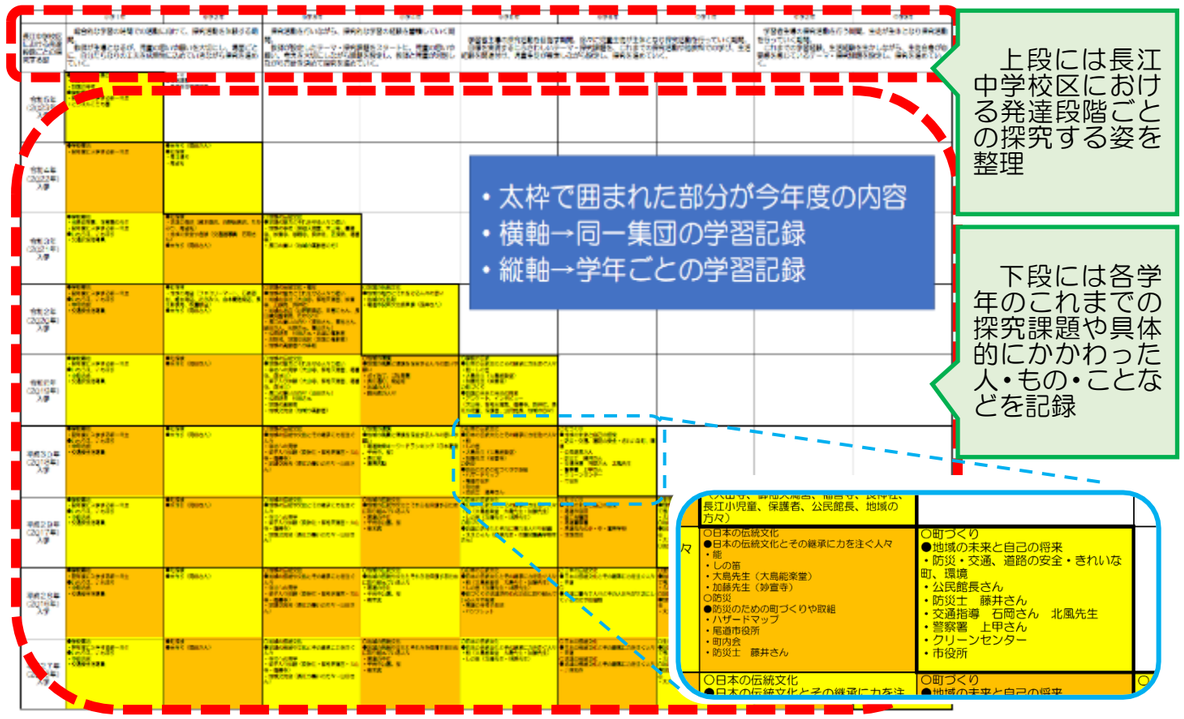
児童生徒が、中学校区で設定した資質・能力（主体性・協働性）の高まりを自覚し、形成的評価（授業者の授業改善、学習者の学習改善）へとつなげるためのルーブリック（評価基準表）を作成しました。児童生徒と資質・能力の発揮された具体的な姿などを共有し、児童生徒の言葉に直したルーブリックを作成しました。振り返り場面で活用し、学習計画の修正など、授業づくりにつなげました。

資質・能力 ＼ 評価		B	A
小学校　第６学年 「BKG（防災・交通安全・ゴミ問題）意識変革プロジェクト ～ぼくたちわたしたちに今できること～」	主体性・協働性	・知りたいことや疑問，課題を見つけようとしている。 ・課題を解決するための方法を考えようとしている。 ・友達と自分の考えを比べ，自分の考えをよりよいものにしようとしている。	・粘り強く課題を見つけようとしている。 ・粘り強く課題を解決するための方法を考えようとしたりしている。 ・友達や自分の考えのよさを生かし，課題を解決するために納得できる答えを見つけようとしている。

児童と作成し、振り返り、授業づくりに活用したルーブリック

実践Ⅲ　「長江中学校区　生活科・総合的な学習の時間カリキュラムレコード」の活用

カリキュラムの縦の関連性（学年間の関連性）を意識できるように、小学校１年生から中学校３年生までどのような探究課題に触れて学びを進めているのか、学びの足跡を整理しました。それぞれの学年だけの学習内容ではなく９年間の学習を関連付けながら視点を広げて探究的な学びを創造するために活用しました。
教科書がなく地域ごとの特性や児童生徒の実態を生かして単元づくりが進められる総合的な学習の時間において、次年度への引き継ぎに活用し、新しく転任してきた先生などでも、少しでも見通しをもって単元開発に取り組むことができるツールとして使っています。



上段には長江中学校区における発達段階ごとの探究する姿を整理

下段には各学年のこれまでの探究課題や具体的にかかわった人・もの・ことなどを記録

実践Ⅳ　「長江中学校区 PBL を意識した単元開発のポイント」の整理と共有

児童生徒が「答えのない問い」に主体的・協働的に取り組むことができるよう、単元開発のポイントを大きく４つに整理し、どの学年・学級でもポイントを意識して授業づくりができるようにしました。

1. 児童生徒が自分事として考えることができるテーマの設定
2. 児童生徒と共有、調整していく単元計画の作成
3. 多様な視点、新しい課題に気付かせるショック（新たな「えっ!?なぜ？」）の場面の設定
4. 多様な視点、考え方（実生活・実社会）に触れさせるための地域人材の活用

©尾道市中学校リーダー研修会

具体的な授業実践は裏面へ

長江中学校　第２学年
「人は何のために働くのか～職場体験学習を通して～」

課題設定

　働く上で重視することをテーマに話し合い活動をする中で、今の自分が思い描く将来と、実際に働くとはどんなことかを結びつけて考えながら、「人は何のために働くのか、働くためには何が必要なのか」という課題を生徒自身が見出していった。

情報収集

　課題解決に向けての情報収集として、尾道の企業について調べたり、尾道商業高校から講師を招いて講習を受けたりした。さらに、地元尾道の事業所で職業体験をさせてもらう中で、知りたいことを調査したり、働いている人にインタビューを行ったりした。

整理・分析

　事業所で働いてみて自分が感じたことや、インタビューをする中で分かったことなどを学級の仲間に伝えたり、仲間の体験を聴いたりしながら、働く意義や働くために必要なことを見つめ直した。

まとめ・表現

　学級の仲間や事業者の方からの意見を参考にしながら、ポスターを製作した。完成後は学級で発表を行い、お互いに評価し合った。代表者が文化祭で発表したり、完成したポスターを事業所に送ったりするなど、自分たちが学習したことを発信した。
　生徒からは、「体験したことや仲間と情報共有したことを通して、働くことについて意識が深まった」「将来の仕事について今の自分とつなげて考えることができた」という振り返りがあった。

長江小学校　第６学年
「BKG（防災・交通安全・ゴミ問題）意識変革プロジェクト～ぼくたちわたしたちに今できること～」

課題設定

　これまでの学習や生活経験を振り返り、６年生として取り組む課題を児童自身が考え、話し合いながら決定していった。
　「尾道」を住んでいる人にとってよりよい町にしたいという大きな課題を設定した。

情報収集、整理・分析

　交通安全指導員、警察署の方、公民館館長など、様々な立場の方から尾道住民の抱える課題に関する情報を集めた。
　尾道住民にとって、防災・交通安全・ゴミ問題が関心の高い課題であることが分かった。

情報収集

　３つのテーマ「B 防災・K 交通安全・G ゴミ問題」を設定し、それぞれの課題の解決方法を考えるために、課題の要因や他市町の取組について調べることにした。

整理・分析

　集めた情報を整理していく中で、どの課題についても「自分事で考えることができない」という、「意識」に問題があるという共通点を見つけた。例えば、防災に関しては「自分は大丈夫」と考えてしまう正常性バイアスが働いてしまうことが分かり、一人一人の「意識」変える方法を考えることになった。

まとめ・表現

　３つのテーマについて、まずは、在校生の「意識」を高めるための講習会を実施した。
　振り返りで、在校生の反応から手応えは感じたものの、尾道全体に広げるためには別の方法を考える必要があるのではないかという意見が生まれ、継続して課題解決に取り組むことになった。

土堂小学校　第６学年
「太鼓で笑顔　盛り上げ大作戦」

課題設定

　自分たちにとって「総合的な学習の時間」とは何かを全員で振り返り、「地域をより良くする活動である」と考えた。そこで「尾道の課題は何なのか」という疑問をもち、まずは課題を探るところからスタートした。

情報収集、整理・分析

　公民館館長、社会福祉協議会の方にインタビューをして、いくつか課題が見えてきた。しかし、地域の人はどの課題を一番解決してほしいと思っているのか分からないので、実際に地域に出てアンケートを行った。

整理・分析

　アンケートの結果、「土堂っ子太鼓で地域を元気にしてほしい」「地域の人同士のつながりをもっともてるようにしたい」という思いがあることが分かった。そこで、探究テーマを「太鼓で笑顔　盛り上げ大作戦」とし、地域の方との交流会を開くことになった。

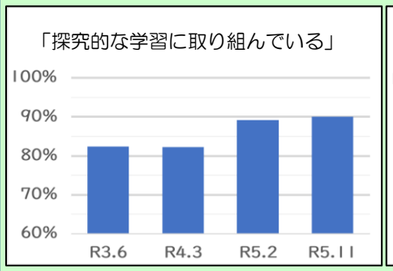
整理・分析

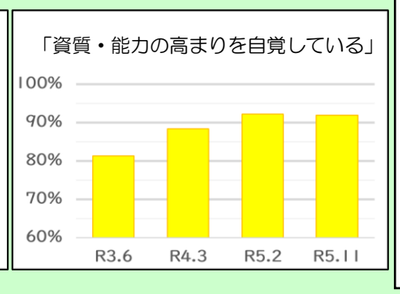
　遊びのブースを作って地域の方に回ってもらうことで、地域の人同士で関わり、つながりがもてるのではないかと考え、計画・準備を行った。また、下級生とリハーサルを行い、気付いた点などのアドバイスをもらい、改善を重ねた。

まとめ・表現

　地域の方に呼びかけて、交流会を開催した。ブースごとの遊びや太鼓で地域の人同士の交流、地域の人と子供たちの交流をすることができた。これらの活動を継続的に行うために、活動の反省を下級生に伝える方法も考えた。

児童生徒の変容





〇自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するという探究のプロセスを意識して学習に取り組むことができると実感した児童生徒の割合が増え、学習者主体の学びにつながっています。
〇効果的な学習場面の設定やルーブリックを使った振り返りを通して、資質・能力（主体性・協働性）に高まりを自覚する児童生徒の割合が増えています。

研究を通しての教員の声

児童が選択したり決定したりする機会を増やせば、主体的・協働的に学べると感じた。

教科横断的なカリキュラム・マネジメントの視点をもつことができ、特に担当している国語との学びをつなげることができた。

正直、４年前より総合的な学習の時間の授業に対しての不安感が強くなった。でも、それは総合について分かることが多くなってきたからこそ、出来ていない部分が見えてきたのだと思う。自分も子供たちも楽しいと思うことができるような総合的な学習の時間を探究していきたい。

学習活動が探究的な授業になっていくためには、「目的意識」「相手意識」が明確でなければならないことを教職員全員で理解できた。

職員同士で総合的な学習の時間に関する悩み事や授業中の子供たちの様子について話すことが増えた。

学習を通して、地域と児童のかかわりが増えた。児童も自分の地域により関心がもてるようになったし、地域の方々も学校に関心をもってくださる方が増えた。